



#### 神奈川県政記者クラブ・文部科学記者会同時発表

平成29年10月31日

#### 国際シンポジウム開催のお知らせ

## 「海底資源の未来と持続可能な開発 一環境配慮は開発の近道」

Sustainable Development of Deep-Sea Resources for the Future

横浜国立大学および東京海洋大学は SIP「海のジパング計画」\*に関する国際シンポジウムを 2017 年 11 月 7 日 (火) に開催します。このシンポジウムでは、海底資源の利用と海洋の環境保全に関する国際的な動向を紹介すると共に、環境配慮に必要な海洋環境の調査、観測モニタリングや評価手法等について、SIP「海のジパング計画」が進めてきた自然科学・社会科学の両分野にわたる研究成果を紹介いたします。そして、総合討論では海底資源利用のための環境影響評価と管理について論議し、「環境配慮こそ開発の近道」であることを示していきます。

※海底には金、銀などの貴金属や、銅、亜鉛、鉛などの貴重な鉱物資源が存在することがわかっています。この貴重な鉱物資源を低コスト・高効率で調査する技術に関する研究開発を進めるためのプロジェクトが、 SIP 次世代海洋資源調査技術(海のジパング計画)です。

【開催日時】 2017年11月7日(火) 10:00~17:30 (開場9:30)

【会場】 横浜情報文化センター 6F 情文ホール (横浜市中区日本大通り)

【プログラム】 詳細は別添フライヤーをご参照ください。

セッション1 海外の海洋資源と環境保全の取り組み

セッション2 海底鉱物資源利用に関わる法制度と社会規範

セッション3 環境影響評価を支える技術開発

ポスターセッションおよび総合討論

【主催・協賛など】

主催:横浜国立大学 共催:東京海洋大学

協賛:海洋研究開発機構 / 国立環境研究所

後援:神奈川県 / 横浜市 / 海洋都市横浜うみ協議会 / 一般社団法人海洋調査協会 /

次世代海洋資源調查技術研究組合 (J-MARES)

協力:横浜観光コンベンション・ビューロー /

【参加方法】 入場:無料 事前参加登録制 定員 200 名

横浜国立大 Web サイト TOP → イベント情報(行事) → 国際シンポジウム「海底資源の未来と持続可能な開発」から事前参加登録できます。

別添フライヤーもご参照のうえ、ぜひともご取材等をよろしくお願いいたします。

本件に関するお問い合わせ先

横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 柴田

TEL: 045-339-3067 E-mail: shibata-yukie-cz@ynu.ac.jp

東京海洋大学 学術研究院海洋政策文化学部門 川邉 みどり

TEL: 03-5463-0574 E-mail: kawabe@kaiyodai.ac.jp

# 底資源の未来 続可能な開

環境配慮は開発の近道

Sustainable Development of Deep-Sea Resources for the Future

2017.11.7 tue 10:00-17:30

(開場 9:30)

横浜情報文化センター

(最寄駅:みなとみらい線日本大通り駅)

Venue: Yokohama Joho Bunka Center (Jo-bun Hall), 11, Nihon Odori, Naka-ku, Yokohama

事前参加登録はこちらから

https://www.ics-com.biz/web\_entry/ynu/entries/add/158

同時通訳付き 入場無料(事前参加登録制)

Simultaneous interpretation service (Japanese-English) is available.











主催:横浜国立大学|共催:東京海洋大学|協賛:海洋研究開発機構、国立環境研究所|後援:横浜市、海洋都市横浜うみ協議会、神奈川県、 一般社団法人海洋調査協会、次世代海洋資源調査技術研究組合(J-MARES) | 協力: 横浜観光コンベンション・ビューロー

海底には金、銀などの貴金属や、銅・亜鉛・鉛などの貴重な鉱物資源が存在しており、様々な社会的期待が持たれてい ます。そして、海底資源の利用を考える場合には、環境に配慮しつつ 「持続可能な開発(sustainable development)」を進める必要があります。

本シンポジウムでは、海底資源の利用と海洋の環境保全に関する国際的な動向を紹介すると共に、 環境配慮に必要な海洋環境の調査、観測モニタリングや評価手法等について、 SIP「海のジパング計画」が進めてきた自然科学・社会科学の両分野にわたる研究成果を紹介いたします。

> そして、総合討論では海底資源利用のための環境影響評価と管理について論議し、 「環境配慮こそ開発の近道」であることを示していきます。

Deep-sea mineral resources must be developed in a sustainable manner in consideration with the environmental impact.

In this regard, this symposium will introduce domestic and international activities and developments in relation to the harmonization between the use of marine resources and the protection of marine environment.

The symposium will also introduce the research outcome on the necessary knowledge for monitoring and assessing the marine environment from natural science as well as social science perspective.

In the general discussion part, opinions of Environment Impact Assessment and Management for deep sea mining would be exchanged and open discussion will be expected, aiming to get understanding that taking comprehensive environmental consideration may provide the nearest way, a kind of short-cut, for the realization of commercial development of deep sea mining.

#### PROGRAMME -

#### セッション | 海外の海洋資源と環境保全の取り組み

「IMOにおける海洋環境保護に関する取組み」

Heike Deggim氏 (国際海事機関 (IMO) 海洋環境部次長)

「海洋資源開発に伴う環境影響の把握と管理に関するヨーロッパの取組み」

Philip Peter Edmund Weaver 教授

(Seascape Consultants Ltd. 元MIDAS環境プロジェクト・コーディネーター)

「太平洋における海底鉱物資源利用への挑戦と期待」

Michael George Petterson 教授 (Auckland University of Technology)

#### セッション2 海底鉱物資源利用に関わる法制度と社会規範

「海底鉱物資源利用にかかわる日本の法制度」

中田 達也 准教授 (東京海洋大学)

「国連海洋法条約のもとでの環境配慮に関する制度」

掛江 朋子 客員准教授 (横浜国立大学)

#### セッション3 環境影響評価を支える技術開発

「新しい監視技術の導入」

河地 正伸 室長(国立環境研究所)

「観測技術の高度化に向けて」

山本 啓之 ユニットリーダー (海洋研究開発機構)

#### ポスターセッション(コーヒーブレイク)

#### 総合討論

司会:松田 裕之 教授(横浜国立大学)

話題提供:

「海洋環境影響評価技術のISO標準化」

吉田 公一 客員教授 (横浜国立大学)

「沖縄における海底資源産業の振興に向けた取組み」

姬野 達哉 専務理事(沖縄海底資源産業開発機構)

「海洋開発事業における環境影響評価及び環境保全措置の事例」

島田 克也 理事(日本環境アセスメント協会)

#### Session 1: International Efforts for the Use of Marine **Resources and Environment Protection**

IMO's Work to Protect the Marine Environment:

Heike Deggim

(Senior Deputy Director, IMO Marine Environment Division)

European Initiatives to Understand and Manage the

Environmental Impact of Exploitation of Marine Resources: Philip

Peter Edmund Weaver

(Managing Director, Seascape Consultants)

Challenges and Insights for the Development of Pacific Deep Sea Minerals:

Michael George Petterson

(Professor, Auckland University of Technology)

### Session 2: Legal System and Social Norm regarding Deep

Japanese Legal System Related to Deep Sea Mining:

Tatsuya Nakada (TUMSAT)

Environmental Consideration under the UNCLOS:

Tomoko Kakee (YNU)

#### **Session 3: Technology Development for Environment Impact Assessment**

Installation of New Monitoring Technology:

Masanobu Kawachi (NIES)

Towards Sophistication of Monitoring Technology:

Hiroyuki Yamamoto (JAMSTEC)

#### Poster Session (Coffee Break)

#### **Discussion**

Facilitator: Hiroyuki Matsuda (YNU)

Discussants:

Koichi Yoshida (YNU): ISO Technical Standards for Use in

Marine Environmental Impact Assessment

Tatsuya Himeno (Okinawa Seabed Resources Industrial

Development Organization):

Efforts in Promoting Seabed Resource Industry in Okinawa

Katsuya Shimada (Japan Association of Environment

Assessment): Cases for Environment Impact Assessment and Environment

Protection Measures in Marine Development Industries